

Youthful Days + PLUS

~YA大賞発表号~

Vol. 119
秋号



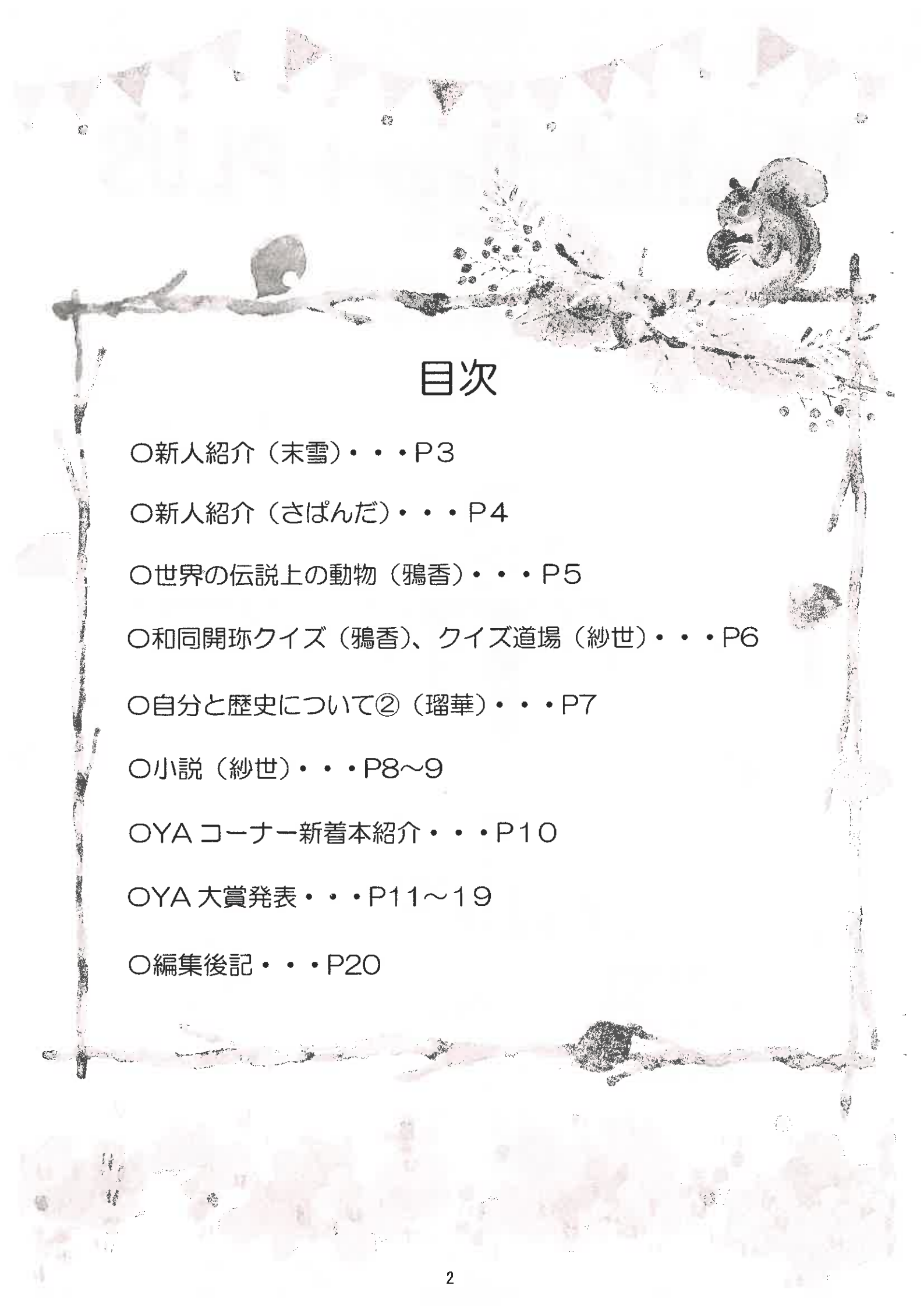
発行元

相模原市立橋本図書館

TEL: 042-770-6600

FAX: 042-770-6601

瑠華



目次

- 新人紹介（末雪）・・・P3
- 新人紹介（さぱんだ）・・・P4
- 世界の伝説上の動物（鴉香）・・・P5
- 和同開珎クイズ（鴉香）、クイズ道場（紗世）・・・P6
- 自分と歴史について②（瑠華）・・・P7
- 小説（紗世）・・・P8～9
- OYA コーナー新着本紹介・・・P10
- OYA 大賞発表・・・P11～19
- 編集後記・・・P20

新人 紹介

初めまして。中学2年の
末雪(まつき)と申します。

好きなものは化学と刀と
文学です。苦手なものは
国語と数学の図形です。
オススメの本は、「むらぎも」

中2 美術
部活 ゲーム
得意 絵描 化学

「雪国」「機械」です。 

この3つの本の作者は最初
から、中野重治、川端康成、
横光利一で、この3人の小説 
はとっても面白いのでオススメです。
す。

これからよろしくお願いします。

お知らせ

YD編集委員募集中！

『Youthful Days+PLUS』の企画・執筆・編集・
製本を行う“YD編集委員”を募集しています。

「みんなと一緒にYDを作りたい！」という熱意の
ある皆様のご参加をお待ちしています！



初めまして。中学二年生の、さぱんだです。

女子好きなことは、ゲームと、読書、絵をかくこと、曲をきくことです。

ゲームは、ソシャゲ、音楽ゲーム(ACも)がとくに好きです。

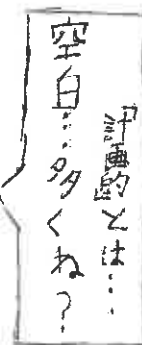
曲は、音ゲーの楽曲、ボカロなどが大・大・大好きです!!

最近、曲作りにも手をだしています(まだへたですが)

委員会は、放送委員会、部活は、美術部です。

ペンネームは、インターネットでつかっている名前を少しかえたものです。

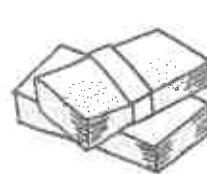
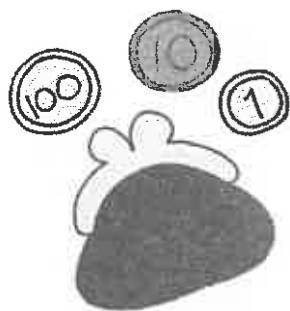
計画的に原稿を終わらせられるようにしたい。
よろしくおねがいます!!



YAコーナープチ展示

新紙幣、君はもう手に取った?

学ぼう! お金のこと



期間：令和6年9月13日(金)～令和6年11月13日(水)



私が好きな

世界の伝説上の動物

Top 3#

1位 ヒッポグリフ



ギリシャ神話に登場する
体の前半身が^{おし}鷲、後半身が馬の
動物。

グリフォンと雌馬の間に
生まれたといわれる。

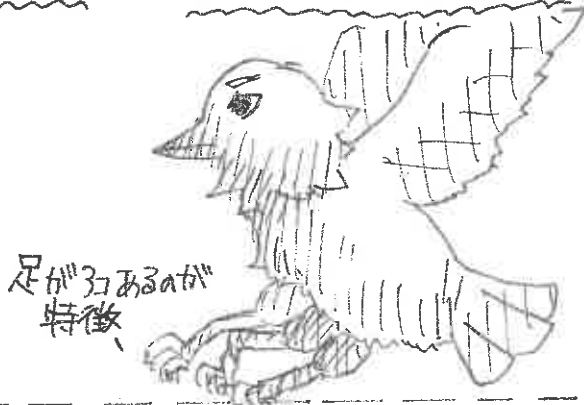
2位 麒麟 (きりん)



中国神話に登場する
ニカに似た動物で全身を^{うろこ}鱗で
覆われていて、額には角が生えています。

太平の世のしるしと
言われています。

3位 八咫鳥 (やたがらす)



足が3本あるのが
特徴

日本神話に登場するカラスで
神武天皇を熊野国から大和国
へ案内したとされており、
導きの神として
信仰されている。

これだけでも伝説上の動物に興味をもっていただけたらうれしいです! 鴉香

和同開珎
も どうかい さん
クイズ

矢印に三台、て読みにとて"4つの熟語が"
成り立つように 中央の四角に漢字一文字を当てはめる
クイズだ"よ！ やってみてね！！

①

南
↓

西 → □ ← 胡

↑
苦

②

柚
↓

梔 → □ ← 芥 檀

↑
撫

③ ちゅうご 其

↓

□ → 蘇

↓
薇



飛香

今回は植物の漢字を集めて作ってみました！
少し難しめた"たけれど"解けたかな？
※植物の漢字は何種類か書き方がある場合があります。
ここで使った書き方はあくまで一例だと考えてください。 ▽

①④②③③ 紫

紗世のクイズ道場 その2

今回は、「10倍クイズ」をします。

下の文字を10倍したら何になるでしょう！

例…おんひゃくせんいち → 答え…温泉まんじゅう

①

じゅうかじいち

ヒント 図書館にあるよ

②

じゅうまんれんま

ヒント 単行いで金段える

① 百戦錬磨 (71 ← 72 ← 73) ② 百戦錬磨

「Ruka & History.」

普段どうやって勉強をしているの？

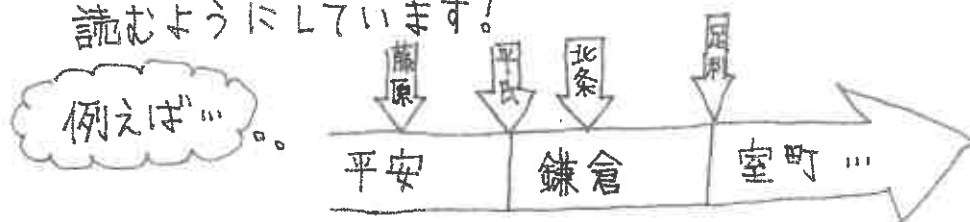
こんにちは！瑠華です。皆さんは歴史、好きですか？
私は歴史を学ぶことが大好きです。ですが、歴史が苦手...という方もいらっしゃるかもしれません。

そこでこの企画、「Ruka & History.」では、私がどうして歴史を好きになったのか、普段どうやって勉強しているかなどを語っていかうと思います！願わくば、皆さんが歴史を学ぶことが好きになればいいな！と思っています。

二回目の今回は、「どうやって勉強しているか」についてです！

私は中学生になってから、中学校・高校の参考書を読むようになりましたが、小学生の頃は主に歴史マンガを読んでいました。母がよく借りてきてくれたことがはじまりです。

1つの時代に関するマンガを、時代ごとに読んでいきます。全ての時代についておおまかに理解したら、次は各人物の伝記を読むようにしています！



などと横の流れの中に縦で知識を入れていくイメージです！
歴史の流れを理解した後に、その人物がらの歴史を見るのも楽しいのでぜひやってみてください☆

瑠華

星降る線喫茶店 ～双子の片割れの旅立ちと涙の流星雨ラムネⅠ～

作: 紗世

YA大賞2023 短編小説部門

『星降る線喫茶店 ～北斗七星の片割れの願い～』

YA編集委員（受賞者）による番外編です。

ねえ^ほ栞帆。私達、ずっと一緒だよ、ね？
うん、ずっと一緒だよ、^{まほ}満帆。

2024年 夏

「うわぁ！海だ！栞帆、海だよ！」
「満帆、うるさい。少し声のボリューム下げられない？」
車窓から見える海に興奮する、元気な双子の妹、^{ふたば}双葉^{まほ}満帆。対照的に姉の^{ふたば}双葉^{しほ}栞帆はおとなしい。共に中学2年生だ。
内陸住みの双葉姉妹にとって、海はとても珍しいものなのだ。
ただ今、双葉家の車は親戚の住む静岡県に向かって国道1号線を走っている。
家を出発して約2時間。静岡の北山温泉で旅館を営むいとこの家に着いた。
「行ってきまーす。」

挨拶などを済ませた栞帆と満帆は、洋服の下に水着を仕込んで海へ向かう。
「貸し切りだ〜!!」

地元の人しか知らない砂浜には誰もいなく、まさに穴場。砂浜を駆け出した満帆は、洋服を脱いで水着でいざ海へ！栞帆は、満帆の脱ぎ散らかした洋服を拾い置いて、持参したビニールシートを敷いた上に置く。そして栞帆も海へ行く。

普段なかなか行くことのない海に行けるのは、静岡のいとこの家に行くときだけである。
そのため、いつもより羽目を外してしまう二人が辛い目に遭ってしまうのは時間の問題なのだ。
「あ、栞帆！私、あちの洞窟の方に行ってくるね。」

「待て、私も行く！」

栞帆は水分補給をしていたため、急いで満帆を追った。
するとその時…！

「ひゃああああ！」

「え、栞帆！？きゃああああ！」

岩の上を歩いていた栞帆は、コケで足を滑らせてしまい、海へ真逆さま。栞帆の声に驚いた満帆までもコケで足を滑らせてしまい、海へと落ちていった。
そして二人は、落ちた衝撃で意識を失ってしまった…。

はっ。
栞帆は、不思議な揺れに驚き目を覚ます

あれ？私、海にいたよね。岩の上でコケで足を滑らせたのに何でここに…？

困惑している表情を浮かべる 梨帆。それもそのはず彼女は目を覚ましたら電車の中にいた。梨帆が周りを見回すと、車内にいたのは、梨帆と、離れた所に座っている満帆だけだった。

「満帆、起きなまーほ！起きて！」

梨帆は満帆の体を揺すり起こさせる。

「んあ〜。梨帆何？」

「なんかよく分からない所に来たらしいよ私達〜。」

二人で状態を確認すると、二人は目を覚めた状況がほとんど同じで、二人が唯一違うのは、起こされた方法だけだった。

「ん、何か匂いしない？満帆。」

「え、あ、ホントだ。何か〜。」

「焦か臭い〜！」

二人は匂いの元へ全力疾走。急いでドアを開けた瞬間、目の前に広がっていたのは、しかも喫茶店だった。

「あ、いらっしゃいませ。」

入り口近くのカウンター裏にいたのはエアロン姿で背の高い男性だった。彼はカウンター裏で七輪を使っていた。

二人は匂いの元が分かりホッとする。

「いらっしゃいませ、星降る系喫茶店へ。双葉梨帆さん、双葉満帆さん。」

彼はカウンター裏から出てきて言う。

「へ？」

急に自分達の名前を呼ばれて驚く二人。

「僕にはちょっとした勘がある、お客様の名前がわかるんです。あ、申し遅れました。僕は当店のバリスタをしています、星都北斗と申します。こう見えて、16歳の高校2年生です。」

「え！？」

自分達より37年上だとは思えない程大人びている北斗を見て驚く二人。

「ここは、疲れた人が休む喫茶店です。どうぞ、お好きな席にお座り下さい。」

そう言うと、北斗はカウンター裏に戻っていった。

二人は目を合わせると、入り口に近い窓際の席に座る。

車窓からは綺麗な天の川や満天の星空が見える。

二人はボーっとしながら外を見る。この電車は水面を走っていた。線路を辿っていくと、遙か彼方に小さい島が見えた。

「あれは、星降る島です。死者の魂が最初にたどり着く場所である。隠世の場所が、星降る島なんです。」

二人は、北斗の言ったことに驚く。

「え、死者の、魂？」

「たどり着くって、どういうことですか？」

つづく

コーナー 新着本紹介(2024.7月~9月受入分)

YA913/ムラカ『かなたのif』

村上 雅郁/作 フレーベル館



友達のいない^{かなた}香奈多と友達を亡くした^{ミコ}瑚子は運命的な出会いをします。瑚子は香奈多に眠りながら世界を旅する、夢渡りの黒い猫『ドコカ』や、願いが叶う『虹のしずく』についての話しをします。孤独だった二人はやがて、お互い大切な存在になっていきますが、ある日香奈多は同級生から瑚子について衝撃的な事実を聞きます。

どこかにあるかもしれない世界で二人の夢と現実が重なり合う時、それぞれの物語が動きだします。最後に二人が見つけた『虹のしずく』とは……。大切な人を守る気持ちが奇跡を起こします。

YA646『もしもミツバチが世界から消えてしまったら』

有沢 重雄/著 中村 純/監修 旬報社



ミツバチが私たちに与えてくれるものとして、まず思いつくのはハチミツ、他にもローヤルゼリーやプロポリスの健康食品などがあります。でも、ミツバチはそれ以上に大きな恵みを、私たち人間に与えています。植物の受粉を手助けする役割を果たすことにより、ミツバチは果物や野菜の豊かな実りを私たちにもたらしてくれているのです。そのミツバチが2006年にアメリカで、短期間のうちに数万匹姿を消してしまうという不可思議な現象が起こりました。いったい何が起こったのでしょうか。

その他のおすすめ新着図書

分類	書名	著者名	出版社名
YA019	中学生からの絵本のトリセツ	川口 かおる/著	岩波書店
YA219	沖縄について私たちが知っておきたいこと	高橋 哲哉/著	筑摩書房
YA332	高校生からわかる日本経済	金子 勝/著	かもがわ出版
YA376/赤	子ども学部	木村 由香里/著	ペリかん社
YA816/赤	型から学ぶ日本語練習帳	要 弥由美/著	ひつじ書房
YA901	シナリオ・センターが伝える14歳からの創作ノート	新井 一樹/著	KADOKAWA
YA913/シオミ	あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。Another	汐見 夏衛/著	スターツ出版
YA933/モーシ	七月の波をつかまえて	ポール・モーシャール/作 代田 亜香子/訳	岩波書店



Y A大賞2024

受賞作品発表！

短編小説部門2作品、イメージアート部門1作品のご応募ありがとうございました。

選考の結果、受賞作品は次のように決定しました。

<短編小説部門> 大賞

「どくはくの名人に花束を」

月風 シアラ／作

<イメージアート部門> 大賞

「夕星 (ゆうづつ)」

てや／作画

読んだ本『汝、星のごとく』 風良 ゆう／著



受賞者には、賞状と副賞として図書カードを差し上げます。



作品を読み終えて

今年でYA大賞は20年目を迎えました。

短編小説部門は、進路に葛藤する高校生の姿を描いた作品と、違う学校に進学した幼なじみと再会したことで揺れ動く心を描いた作品。YA世代ならではの着目点で作品構成もしっかりしており、どちらも最後まで読む者を惹きつける力作でした。

イメージアート部門は、20年目にして初めての募集でした。読んだ本の一場面をイメージして描くなんて難しい……と感じる方もいたかもしれません。それでも、瀬戸内海の小さな島で芽生えた暁美と權の恋とその後を描く『汝、星のごとく』（凧良ゆう／著）の雰囲気伝わる1作品がエントリーされました。

ご応募、本当にありがとうございました。

今回は、高校3年生も応募してくれました。昨年に引き続き応募してくれた方もいました。中学生、高校生世代が感じたこと、表現したいことは特別な輝きを持っていると感じます。私たちスタッフは毎年、どんな作品が届くのかをとても楽しみにしています。

来年度もみなさんからの応募をお待ちしています。

橋本図書館 YA大賞担当

★ 橋本図書館のスタッフからのコメントを一部ご紹介します ★

【短篇小説部門】

大賞受賞作品 「どくはくの名人に花束を」

- ・人生に意味を見つけようと悩む高校生の心の内を、よく表現した作品だと思います。主人公が進路について先生と語る中で、何かを乗り越え、世界の見方が変わります。大人になるってそういうことですね、と改めて感じさせられました。
- ・自分になりたいものは何か、漠然としか浮かばないのに答えを求められる苛立ち、苦悩、模索……主人公が感じるほろ苦い思いが読み手にも響いたので。進路を考えるとこの年代ならではの心の動きを取り上げた着目点がいいです。
- ・時折毒を吐きながらも終始静かに主人公の独白で物語が進みますが、風景描写が秀逸で場面ごとの風景が読んでいて自然と目に浮かんで来ました。進路や人間関係に悩む主人公が、全ての悩みから解放された訳ではなくても最後には暖かな希望を感じながら前向きになれたのも読後感が良かったです。

【イメージアート部門】

大賞受賞作品 「夕星 (ゆうづつ)」

読んだ本『汝、星のごとく』 凧良 ゆう／著

- ・イメージアートの元となった作品を読んだ事が無いのでイラストだけ見た感想になってしまいましたが、じんわり夕陽が溶け込む色合いと空や海の色合いとグラデーションがとても美しく惹かれる作品でした。砂浜や水面も微かにラメが煌めく感じがとても綺麗で良かったです。
- ・一目で、『『汝、星のごとく』だ!』とわかりました。絵や色彩の選び方が卓越しているのはもちろんですが、モチーフの選び方に抜群のセンスを感じました。イラストを拝見して、もう一度『汝、星のごとく』が読みたくなりました。作品のエッセンスをととても上手に抜き出し、イメージアートと呼ぶに相応しい作品だと思います。ぜひこれからも、たくさんの本に出会い、素敵な感性を育ててください。
- ・現代的な要素も備えつつも真っ当な恋愛小説といった本作品のイメージをそのまま素直に表現しているところが良いです。

YA大賞2024 短編小説部門 大賞受賞作品

どくはくの名人に花束を

月風 シアラ／作

この物語はフィクションです。

しかし、その証拠は何処にもありません。

とある日の朝。

『絶対当たる性格診』

『双子だったんだけど』

『模試の成績って』

『娘が英検一級に受かりました！』

規則的なリズムに揺られながら、液晶をサラサラとスライドしていく。

『最近治安悪くない？』

『最終話ガチ感動した』

『こいつもう手遅れだろwww』

ピタリと手を止め、槍玉に挙げられた女性の投稿に目を通す。

『先程の地震は人工地震です。さっきは震度3でしたが、近々日本全土にマグニチュード8の地震が起きます。これは政府の陰謀です。』

典型的な陰謀論者、としか言い様がない。投稿には『いいね』よりもコメントが多くついており、その殆どが批判的な内容だった。当然だろう。人工地震を起こすメリットはどこにもないし、技術的にも不可能に近い。

便乗でもしようかなと、バッグの上に乗せてあった左手を添え液晶を叩く。

『義務教育の敗北がここにも……』

この手の投稿に正論で立ち向かって仕方が無い。なので、定番の皮肉をぶち込んで送信する。瞬く間に『いいね』が数個付いた。どうやら元の投稿は現在進行形で閲覧数を伸ばしているらしい。私が言うのはおかしいことだけれど、この世界は暇人の溜まり場と形容してもよさそう。もう一つ瞬く間に、ポンと私宛てのコメントが現れる。

『人工地震には科学的な根拠があります。そのようなコメントをするのはやめてください。』

まさか本人から返信かとアイコンを確認すると、似ているだけの別人だった。添付された画像は小学生でも嘘だと見抜けるようなちゃちなもので、この人は批判的なコメントに只管同じ返信をしているらしい。

「暇人か。」

小さく洩らした声が聞こえたのか、前に立っていたサラリーマンが少し顔を上げてこちらを見る。

「すみません。」

その他いくつかの視線を追加で感じたため誰にともなく謝り、再びスマホに目を落とす。
あと2駅か。

液晶をスライドして叩くこと数十秒、他に面白い投稿も無かったので顔を上げて外を見る。真っ青な空が夏の山を照らしていた。こんなに綺麗なのに星の一つも見られないなんて、太陽ってのはずいぶんと傲慢な星だ。そいつが照り付ける蝉時雨の中今日も登校し、授業を受け、部活をして下校する。その途中でヒーローが現れたり、イケメンと街角でぶつかったり、魔王軍に連れ去られたりはしない。きっと明日も、明後日も来月も来年も、死ぬまでそうなのだろう。人生は暇以外の何物でもない。ただ生きて、時間を潰していくだけの無為に意味を見出すことが出来たのはいつの頃までだろう。物語の主人公はその友達役に、悪役に堕ちてモブに成り下がって、高校生になる頃には書き出しからみ出してしまった。

今の表現詩的かも、なんて下らん事を考えた直後、スマホにバイブが一回入る。

『カフェに新作出るって～！明日みんな空いてる？飲みに行こっ！』

面倒くさ。通知押さなきゃよかった。既読スルー……は後が面倒だ、何か返信しよう。

『明日は無理だけど明後日なら行ける』

送信ボタンを押そうとしたが思い止まる。もう少し軽く、楽しげな文面の方がいいかもしれない。

『ごめん明日はちょっと……明後日ならいけるよ！！』

今度こそ送信ボタンを押してメッセージを送る。

すぐにウサギが飛び跳ねているスタンプが返ってきた。OKと吹き出しが付いている。

見ず知らずの他人と喧嘩したり盛りあがるのは簡単なのに、何故こうも友人関係は面倒が付きまとうのだろう。どうしても良くない関係性というのは心地良さもあるが、ストレスも大きい。自分がどちらによれば幸せになれるのか、私には少しも分からなかった。

「未来おはよ！遅かったね～もしかして寝坊？めづらし～」

「たまにはね。春奈こそ早いじゃん。」

「大会が近くてさ、朝練してたの。」

「金賞狙ってるんだっけ？頑張ってるね。」

「もうちょっと心込めた応援でもいいんだよ？」

「心込めてるって。」

「抑揚も表情も無い『頑張ってる』のどこに心が込もってるのよ。」

「やり直そうか？」

「いや今からキラキラされても……」

ガラガラと扉が開き先生が入ってくる。

「おはよう。全員出席してるね。今日の5時間目の総合の時間はそれぞれの将来やりたいことについて小論文を書いてもらいます。自己推薦の課題で題材に使われることもあるテーマなので、まだ高2だからといって手を抜かず真剣に取り組むこと。」

今一番考えたくないような主題に閉口する。どうやって乗り切るか……

「それから。」

先生は口を止めてこちらを見た。

「甘夏さん、今日は進路面談です、放課後忘れずに進路指導室に来るように。」

前回逃げたのバレてるな。もう私以外みんな終わってるっぽいし、今日は流石に行かなきゃか。軽く頷いて行く意思を表明すると、先生はみんなの方に向き直った。そこからの話はあまりよく聞いていなかったが、まあ問題無いだろう。困ることがあったら友達にでも聞けばいい。

放課後。私は覚悟を決めると進路指導室の扉を叩いた。

「失礼します。2年3組の甘夏未来です。」

「どうぞ。」

先生の声が聞こえてきたので扉を開け、用意された椅子に座る。テーブルを挟んだ先に居る先生の前にはパソコンが置いてあった。大方この前の模試の成績、或いは5月頃に行われた学校生活におけるアンケートの結果を表示しているのだろう。

「今回は来てくれてよかった。聞きたいことは色々あるんだけどさ、まずはこれについて聞いてもいい？」

先生は何処から取り出したのか、灰色になった原稿用紙を私の前にスライドする。

「甘夏さんので間違いのないよね？」

記名こそしていなかったけれど、他の人が全員提出したのなら、これが私のものだとは特定されているのは普通の事か。

「はい。間違いありません。」

先生は消しゴムによって黒檀に戻され広げられた文字の残骸を困り顔で見た。

「『将来やりたいこと』。このテーマに悩んだからなのよね？消す前は何かを書いていたの？」

何と答えるか迷ったが、ここで嘘をついても仕方が無いので、本音をもって答える。

「ヒーローになりたい、とか魔法使いになりたい、とか、少し妥協して女優になりたいとか……職業をいくつか挙げて、どれも現実味が無いので消しました。」

我ながら中々イタイ高校生だと思うが、自分がなれそうなレベルのなりたい職業が見つからないんだから仕方が無い。かといって、幻想だけで一枚書き上げるというのも虚しさがこみ上げてくる。笑われるか怒られるか二択だと思っていたが、先生の表情は思案顔から変わらなかった。

「成程ね。みんなが考えてる中ずっと焦ったように手を動かしていたのはそういうことか。」

焦ったように？

「一言目にヒーローになりたいって言ったよね。どんなヒーローになりたいの？」

その質問に面食らいながらも、自分の憧れの存在をイメージしてみる。

「超パワーで変身して、仲間たちと協力しながら悪を倒す……みたいな感じですかね。」

「そうだよね。でもさ、現実にはいない訳じゃん？代わりに世界を回して世界を守ってる職業はある訳じゃない？例えば」

ああまたか。そう思った瞬間椅子を蹴って立ち上がっていた。

「そんな話、もう小学生の頃から聞き飽きてます！」

一言目を発すると、そのまま感情が堰を切ったように言葉となって流れ出した。自分の中で限界が来ていたんだろうなと、ぼんやりと思う。

「代わりの何かじゃ駄目なんです。地球の平和を守りたいとか、人の笑う顔が見たいとか、そんな綺麗な気持ちなんかない、ただ人には無い凄いで敵を倒したいだけ。選ばれて、輝いて、喧嘩しても一生一緒にいられる友人が欲しいだけ。私の成りたい職業なんてこの世に存在しないんです！」

なんて愚かしい事を言っているのだろう。自分の醜い心の核を大声で晒しきってしまった。

「……ヒーローになりたいって子は受け持ったことあるけど、貴方みたいな生徒は初めて見たわ。いつも無気力に見えるのに、そんなこと考えていたのね。」

微笑みながら言われて、とりあえず椅子に腰を下ろす。

「すみません。」

「謝らなくていいのよ。私もお姫様になりたくて、^{かんしやく}癪癪を起していた時期があるもの。」

それって

「まあ、小学校3年生くらいの時には、新しい夢が見つかったけどね。」

そりゃそうですね。

「確かに、あなたの夢は叶わないと思うわ。この世に絶対は無いなんて言うけれど、ヒーローが存在する可能性も、それが貴方になる可能性も限りなく低いもの。」

分かっていた話だ。仮にヒーローが居たとしても、それは絶対に私じゃない。選ばれるのは心の底から平和を願えるような、それこそ先生が昔面談したと言っていた生徒の方だろう。

「でもね、運命の出会いって意外と起こるのよ。」

運命の出会い？

「そう。こんな人になりたいな～って思える人と会える日はきっと来るわ。現実的になれる職業を目指すようになるのは面白くないと思うかもしれないけれど、そんな夢でも叶えたら嬉しいものよ。それに、ヒーローって、ヒーローを本業にしてる人の方が少ないでしょ？小説家、教師、お花屋さん…最近は小学生からおじいちゃんまでヒーローやってるって言うし。ヒーローは生涯追いかける夢として、それとは別に何か夢を見つけてもいいんじゃないかな。」

先生は真面目な顔で、そんな提案をしてきた。

「夢って、二つあってもいいものなんですか？」

「勿論。ここだけの話、先生は今でも白馬の王子様が私をお姫様にしてくれるのをまってるのよ。もう癩癩は起こさないけどね。」

少し笑い合って、そこからは他愛無い話をした。成績関連の話をそう言っているのかは分からないが、やらされてきた勉強も特技の一つだ。将来に比べたら、特に取り立てる程の事は無い。

「この小論文は全員分見て成績表の『総合』の欄にコメントを書かなきゃいけないの。だから明日の朝、何か書いて持って来てもらってもいい？具体的な職業は書かなくてもいいから、将来像を少し考えてみて。」

私は小論文用紙をファイルに入れ鞆を閉じた。

「分かりました。職業も、今度はちゃんと書けると思います。ヒーロー以外で。」

先生はまた微笑むと、パソコンを閉じて立ち上がった。

私は挨拶をして、もう一度ちゃんと謝罪をしてから進路指導室を立ち去った。

校門を抜けると同時に、まだ傾いた太陽が私にスポットライトを当てる。こんなに地球を暖めているのに夜は大人しくしているなんて、太陽は意外と優しいのかもしれない。

部活帰りの生徒の笑い声、草の香り、空を駆ける鳥や昆虫。

ヒーローも、魔法も、王子様も居ない筈のこの世界が、今は少しでも暖かく感じた。

YA大賞2024 イメージアート部門 大賞受賞作品

「夕星 (ゆうづつ)」 てゃ／作画



読んだ本『汝、星のごとく』 凧良 ゆう／著

♪ オリジナル作品は、橋本図書館にて展示します ♪



編集後記



秋休みがあれば
と☆でも☆
うれしい

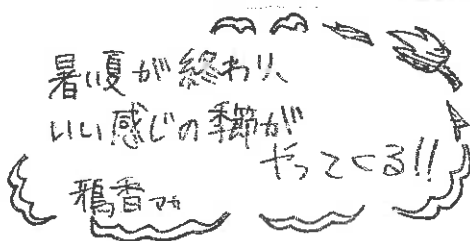
未雪

課題が山積みで終わ
らない...皆さんは、計画
的に糸冬らせましょう。

さぼんだ

行事に毎回「中学最後の」と
つくようになり、さびしさを
覚えます。「最後」、全カで
楽しむぞ!!

瑠華



暑假が終わり

いい感じの季節が

来てる!!

鴉香

受験日が近いのに

長い小説を書いて地獄を

見たJKです...

紗世

お知らせ

YD 編集委員募集中!

Youthful Days+PLUS の企画・執筆・編集・製本に参加してみませんか?

次回の会議は10月13日(日) 午後2時から

場所: 橋本図書館 グループ読書室(変更になる可能性があります)

奥付

Youthful Days+PLUS Y A大賞発表号 (Vol.119)

令和6年10月1日発行

Youthful Days+PLUS 編集委員会/編著 相模原市立橋本図書館/発行

SUGS
未来都市
さがみはら

